

キュウリの循環式ロックウールにおける栽培技術

牛田均・松崎朝浩

キュウリの循環式ロックウールにおける栽培技術を確立するために、半促成と抑制栽培の年2作型における培養液濃度、側枝の発生伸長要因と培地の連用について検討した。

1. 培養液濃度は半促成・抑制栽培ともに、定植後から収穫始めまで EC1.8mS/cm で、収穫始めから収穫終了まで 2.4mS/cm とすると収量が多かった。
2. 接ぎ木による側枝の伸長と増収効果が認められた。そして、台木と穂木の品種の組合せでこれら効果の大きさに差異がみられた。
3. 育苗の給液濃度は、EC0.5~1.0mS/cm で管理し、1~2.5 葉の若苗の定植が、側枝の発生伸長に有効であった。
4. 4作以上の培地の連用は、15%前後の減収になった。